

シリーズ里川 川らしさを取り戻そう

美しくなければ川じやない



吉村 伸一

よしむら しんいち

吉村伸一流域計画室代表
技術士（建設部門、環境部門）

1948年北海道生まれ。1971年室蘭工業大学土木工学科卒業、同年横浜市役所に入庁。1977年から94年まで下水道局河川部に勤務。1998年から現職。

主な共著に「自然環境復元の技術」（朝倉書店 1992）、「多自然型川づくりを超えて」（学芸出版社 2007）、「日本文化の空間学」（東信堂 2008）など（いずれも共著）

横浜市の「和泉川東山の水辺・関ヶ原の水辺」及び、佐賀県の「嘉瀬川・石井樋の復元」設計で土木学会デザイン賞受賞

図版及び左ページの写真：吉村伸一さん提供

私が深く川とかかわるようになったきっかけは、「よこはまかわを考える会」という市民団体に加わったことにあります。都市河川に興味を持つ横浜市民職員が二十数名集まって、1982年（昭和57）に発足しました。

1970年代から1980年代初頭にかけては、環境に関心を持たれて、多摩川などでも、自然保護運動が盛り上がった時代です。暗渠あんきょにされた河川が親水公園に生まれ変わって、せせらぎが復活したりしているころ。でも、それはまだ、川の再生というような内容ではなかった。

会のリーダー的人物は、2004年（平成16）に亡くなられた森清和さん。当時は公害対策局に所属していました。精力的だし、戦略もすごかった。

当時、川が埋め立てられたりコンクリート化されても、市民は「自然を残せ」とは言わなかった。市民は普段の生活で川を必要としていないから、極端な話、どうなってもよかったです。それは、川を使わなくなったから。それで、都市の川を楽しく使おうということで、まずは「どぶ川遊び」から始めたんです。

しかし、東京や横浜の川は、本当に悲惨な状態だった。横浜の川だけ見ていると絶望的になります

が、それでも「どうすれば、良くなるか」を考えました。そのときに森さんや川の会の仲間と全国の川を見て歩いたことが、すごくヒントを与えてくれましたね。「流水部に植生を回復させるなど、技術的に工夫をすれば、何とかできるんじゃないか」という希望が湧いてきたのも、たくさんさんの川を見たからです。

1982年（昭和57）から低水路整備に取り組んだ独川では、河川改修で川幅が3倍ほどに拡げられ、川底が平らになり水深が浅くなって、変化のある川の流れはなくなっていました。

水深を以前のように深くして、早い流れや遅い流れといった多様性を回復するために、河床の中央部を掘り下げ、掘った土砂を両岸に盛り土して、自然な滲筋みおろしを形成する計画を立てました。

しかし、住民からは、「河床に草が生えると、流れが妨げられて危険」「余計なことをするな」というものでした。一番ショックだったのは、住民に納得してもらったのに見せた全国の川のスライドに、何の反応もなかったことです。私は、これらの川の姿に可能性を見出してきただけに、本当にショックでしたね。

しかし水はまだ汚いのには、子供たちは工事直後から川で遊び始め



1982



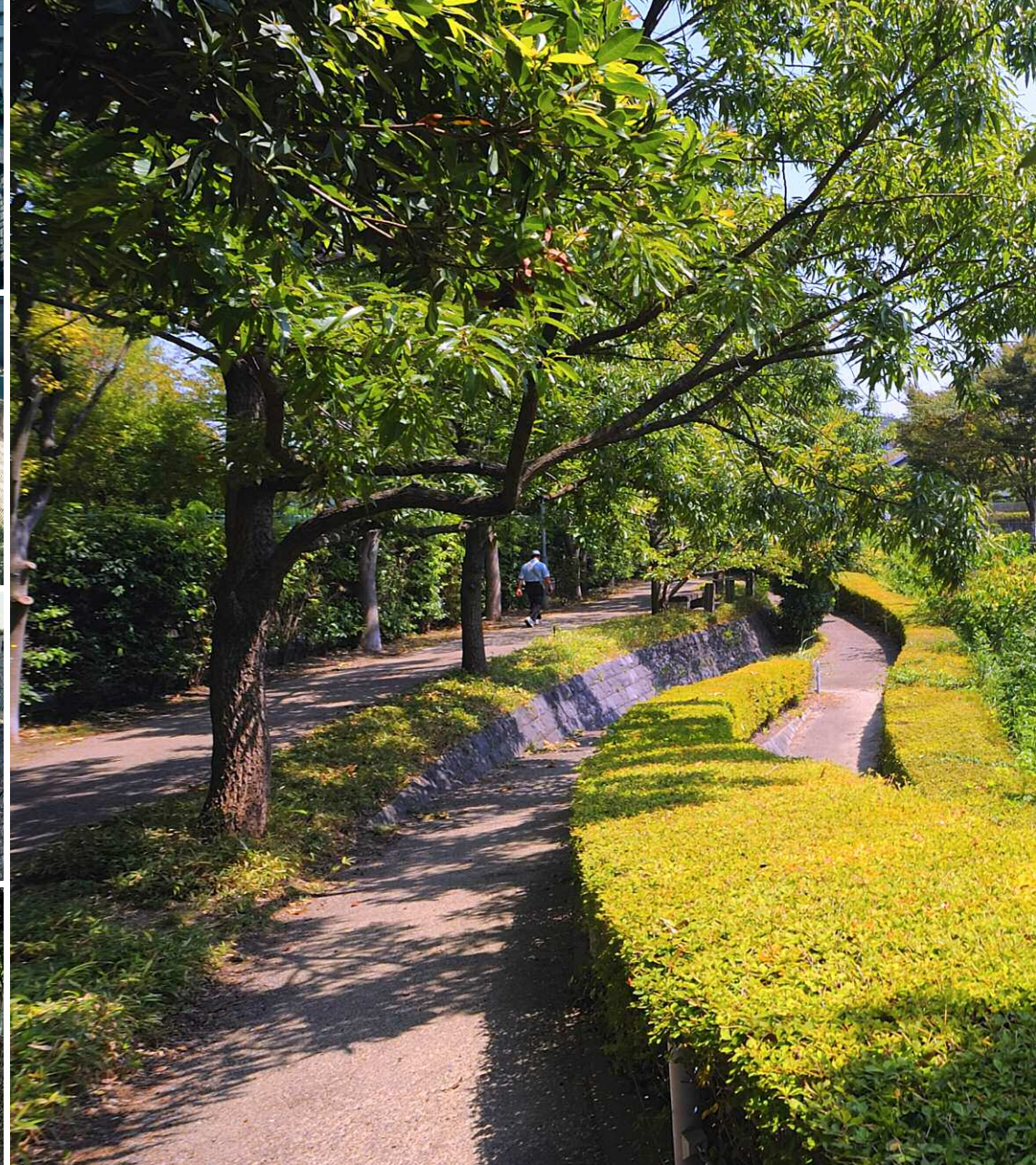
1984



1992



2009



たんです。そうしたら「怪我をし
たらどうする」と、今度は苦情の
嵐が2年間続きました。でも、水
生植物が豊かに茂り、多様な流れ
が復活した独川は、今では地域の
シンボル河川として親しまれるよ
うになりました。

低水路が地元に着して再開し
た天神橋上流の整備（1992年平
成4）では、水際にヨシやガマな
どの抽水植物を植え付ける植生工
法を採用し、川沿いの通路にはケ
ヤキを植えました。改修前の独川
はケヤキの河畔林が連続していま
したが、すべて伐採されたんです。
ケヤキを復元することで空間全体
がより川らしく、魅力的になりま
した。夏は葉が茂り木陰で涼しく、
冬は葉を落として陽が注ぎ暖かい。
河畔林は川らしさの重要な要素で
す。

独川の上流は、1989年（平成
元）にふるさとの川整備事業の指
定を受けて、稲荷森の水辺など周
辺の自然と結びついた水辺拠点を
整備しています。1991年（平
成3）に指定を受けた和泉川でも、
東山の水辺や関ヶ原の水辺など、
川と森をつなぐ水辺拠点を整備し
ました。子供たちの川遊びは日常
的な風景になり、大勢の人が和泉
川に来るようになりました。

しかし、一方で問題も生じてい
ます。和泉川は整備から十数年経
って補修等が必要になっています
が、木製の柵がコンクリート擬木
柵に取り換えられてしまいました。
生物のために木を植えて人が入り
にくいように整備した湿地空間で
は、樹木が刈り取られ池やワンド
が丸裸に……。いろいろ考え方があ
ってもいいのですが、何を大事に
しなければならぬか、環境を見
る目を磨くことが必要ですね。私
が就職したころは、まず自分で設
計するということをやらされました。
測量から図面作成、積算まで
すべて、先輩のやり方を見ながら
覚える。今は、最初から外部任せ
になっています。

川らしさというと川の中だけを
考えがちですが、周辺を含む空間
全体が大事です。川幅を広くとり、
川の自由度を上げ、川の作用で川
らしさを回復する。川と周辺の自
然をつなげる。それが、これから
の大きな課題です「暮らしの中を
流れる川、行ってみたくなる川の
空間」を目標としています。

